

## 自主的に考え、行動する 経済同友会らしい会員に

座長 齋藤 敏一

ルネサンス  
取締役社長



1944年宮城県生まれ。67年京都大学工学部卒業後、大日本インキ化学工業入社。67年よりスイス連邦工業大学留学。69年帰国後、研究所、海外事業部を経て、79年企業内ベンチャー事業としてスポーツ事業を企画。大日本インキ化学工業100%出資にてディッククリエーション（現ルネサンス）を設立して出向、後に転籍。92年代表取締役社長に就任。  
99年経済同友会入会、2001年度より幹事。2001～2003年度創発の会副座長、2001～2002年度「“市場の進化”と21世紀の企業」研究会座長、2003年度社会的責任経営推進委員会副委員長、2004年度社会的責任経営推進委員会常任委員、2005年度社会的責任経営推進委員会副委員長、2006～2007年度創発の会座長。

### 代表幹事らとの懇談を通じて 同友会の主たる考えを把握

創発の会は、経済同友会入会2年以内の会員を対象に、同友会自体や委員会活動について知ってもらうための場です。そのため、毎年度最初の会合では、代表幹事をお招きし、その年度の活動方針や代表幹事所見の内容をわかりやすくご説明いただいています。夏季セミナー後の会合では、専務理事から夏季セミナーの要旨を聞けるので、両方の会合に出席すれば年度前半の2大イベントの概要を把握できるということになります。副代表幹事の方々からも、委員長を務めている委員会の活動方針や内容、あるいは企業経営をテーマにお話しいただく機会があります。

また、今年1月には小林陽太郎氏、9月には牛尾治朗氏といった

歴代代表幹事を講師にお招きしました。小林元代表幹事からは同友会におけるCSRに関する取り組みについて、牛尾元代表幹事からは同友会活動の変遷やご自身の経験談についてご講演いただきました。出席したメンバーには貴重な経験になったようで、「こんなに親しくお話をさせていただけるなんて！」と興奮気味に感想を述べていた方もいらっしゃいました。

メンバーの方には、こうした機会を通じて経済同友会の主たる考えや重要な活動を知り、その上でこの先、どの委員会に参加するかといったことを考えていただきたいと思っています。

### メンバーの自主性のもと さらなる議論と行動を

実際の会合では、発言しやすい雰囲気づくりを心がけています。

副座長（役職は10月19日現在）

- ・稲田 和房  
（クレディセゾン 常務取締役）
- ・梅田 一郎  
（ファイザー 取締役）
- ・平田 正之  
（エヌ・ティ・ティ・ドコモ 取締役副社長）
- ・藤岡 誠  
（日本軽金属 取締役専務執行役員）
- ・宮下 正裕  
（竹中工務店 常務取締役）

メンバー192名

（インタビューは9月21日に実施）

会合は活気にあふれていて、質問が途切れるようなことはありません。ひとつの質問が新たな議論のテーマとなり、質疑の時間を超えてその後の懇親会まで“延長戦”になることもしばしばです。このあたりには、自由闊達な議論の場という経済同友会らしさがよく表れていると思います。

会合の最近の話題で目立ったのが、サービス産業の生産性をどう高めていくかというテーマです。サービス産業は、就業人口や産業構造に占める割合が高い一方で、業種・業態が多岐にわたること、中小企業やベンチャーが多いことなどから、たくさんのメンバーが複雑かつ大きな課題であると捉えていることがわかりました。

既に「サービス産業の生産性向上委員会」によって検討がスタートしていますが、このテーマに限らず、特定のテーマに関心を持った数人が集まって話し合うというようなことが、もっとあっていいのではないのでしょうか。経済同友会の中で自ら何かを始めたいと考えている会員には、創発の会をどんどん活用してほしいですし、そうした自主性を持った会員を育てていきたいと思っています。